

平成 23 年度

第 1 回

埋蔵文化財展示室更新検討委員会

議 事 録
(要 旨)

実施日 平成 23 年 11 月 8 日 (火)

実施場所 札幌市中央図書館 3階 研修室 A

平成 23 年度 第 1 回埋蔵文化財展示室更新検討委員会 会議要旨

<<会議概要>> * * * * *

1. 開催日時・場所

平成 23 年 11 月 8 日 (火) 18:30~20:00

札幌市中央区南 22 条西 13 丁目 札幌市中央図書館 3 階 研修室 A

2. 出席委員氏名 (五十音順、敬称略)

阿部一司、右代啓視、加藤博文、川名広文、越田賢一郎、小杉 康、古原敏弘、平間吉春

3. 事務局氏名

文化部長 杉本 雅章

文化財課長 本間 敬規

埋蔵文化財係長 仙庭 伸久

埋蔵文化財係 藤井 誠二、石井 淳

乃村工藝社 福田 良一、木野 聡子

4. 傍聴人

2 名

5. 会議次第

1) 開 会

2) 文化部長挨拶

3) 事務局等紹介

4) 事務局説明

5) 委員紹介

6) 座長・副座長の選出

7) 議 題

(1) 委員会の進め方について

(2) 展示室の現状について

8) 総 括

9) 閉 会

6. 会議資料

「札幌市埋蔵文化財センターパンフレット」

「札幌市埋蔵文化財センター展示解説」

1. 開 会

(1) 主催者挨拶

杉本文化部長より、検討委員会設置の経緯と目的について説明。

(2) 事務局等紹介及び事務連絡

会議は、札幌市情報公開条例の趣旨に鑑み、公開で開催。また、会議要旨は、札幌市文化財保護審議会の公開に関する取扱要領に準じて取扱うこととし、要旨をとりまとめたうえ、年度内に2回程に分けてホームページおよびセンターに備え付ける。

(3) 委員紹介

事務局から深澤委員より欠席の事前連絡との報告。その後、各委員から自己紹介。

(4) 座長・副座長の選出

埋蔵文化財展示室更新検討委員会設置要綱第5条に基づき、座長に越田委員、副座長に川名委員を互選により決定。

2. 議 事

議題1 委員会の進め方について

事務局：委員会の設置趣旨は、埋蔵文化財展示室更新検討委員会設置要綱第1条のとおり、埋蔵文化財展示室の更新に向けた基本方針及び基本計画を策定するにあたり、展示室のあり方や機能について専門的な立場からの意見を聴くために検討委員会を設置。展示室の全面的な更新をするにあたり、本市がこれまで実施してきた発掘調査の成果を活用したうえで、市民に埋蔵文化財保護の大切さについて理解を深める施設としての理念に基づき、現状の展示施設の旧態化や展示内容の不足を解消し、設備、施設の改善を図ることを目的とした基本方針を策定するために当委員会での検討をお願いしたい。

今年度は、本委員会での意見交換をもとに展示室更新の基本方針案を取りまとめ、来年度に実施予定のパブリックコメントを経て、基本方針を策定する。来年度以降の計画については、現在、本市で策定中の第3次札幌新まちづくり計画に、本更新計画が位置づけられた場合には、検討委員会での意見をもとにした基本計画を策定し、26年度のリニューアルオープンを目指したい。

今年度は4回の委員会を予定。第1回は、委員会の進め方及び展示室の現状についてを議題としている。第2回は1月を予定。展示構成と展示手法を議題とし、併せて類似施設の事例を紹介する。第3回は2月を予定。基本方針の概略を提示し、最終の第4回で基本方針案を報告、とりまとめを行う予定である。この4回のほかにも、委員からの要望を踏まえて収蔵資料等に関する意見聴取の機会を設けたい。

座長：平成24年3月までに4回の会議を開催し、基本方針を作っていく。さらに並べる遺物についての検討を、必要に応じて議論の場を設けるといことですね。次年度にパブリックコメントを行うとのことだが、展示室更新事業が第3次札幌新まちづくり計画にのった場合と、のらなかった場合とでは、検討委員会の方針は変わるのか。

事務局：いずれにしても、本委員会ではパブリックコメントに提出する基本方針についての意見とりまとめをお願いしたい。今年度はそこまでとし、第3次札幌新まちづくり計画に位置づけられた場合には、本委員会の継続を考えている。

座長：今年度は、4回の会議で基本方針を作るということですね。決して時間に余裕のある会議ではないと思いますので、その中で委員の皆さんの意見を伺いながら進めたい。事務局の説明と今後の取り進め方について、委員からの意見を伺いたい。

委員：本委員会では展示室更新基本方針の案を作るものと思うが、これは最終的には市長に答申するという形のものなのか。どのレベルのまとめ方なのか。

事務局：委員会での提案を文化部長が受け、とりまとめる形となる。

座長：基本方針の中に何を盛り込んだらよいかを諮っていききたい。議題2には、展示の現状ということもあるため、それをどう変えていくかという問題、新たに付け加えるべきもの、さらには古くなった展示の更新やアイヌ文化期の出土品の展示について委員の意見を伺いたい。

委員：展示を見ると、一般的に言われているアイヌ文化期というのが12・13世紀からだとすれば、それ以後の展示があまりない。市民としては、アイヌがいたというような展示がないのは、やはり疑問に思う。市民が見て連続性のある展示をすること、12・13世紀からのアイヌ文化期としての展示をきちんと続けてもらうことで市民からの理解も得られるのではないかと。

委員：展示の解説にタイトルや時代性ぐらいのところまでは英語表記を入れるべきではないか。また、北海道のアイヌ民族につながる歴史の連続性を意識した展示が大事。もう一つは、アイヌ文化期の資料を展示する際には、名前の表記としてアイヌ語表記を加えることが大事だということ。他の博物館ではなかなか表示されていないが、札幌市が進んで実践してもよいのではないかと。

委員：展示構成及び手法については次回の検討内容かと思う。まずは現状のリニューアルが必要だということで、実際の利用者や運営している職員が直接聞いているような意見などについて紹介してもらい、問題点や課題点を確認するのがよいのではないかと。

座長：それでは、事務局の方から説明をお願いします。

議題2 展示室の現状について

事務局：現状の展示コンセプトは大別して以下の3点となる。

1. 札幌市内の埋蔵文化財の展示と発掘調査成果の公開
2. 埋蔵文化財センターの仕事の紹介
3. 古代体験により埋蔵文化財への理解を深め、学校教育に役立てる

この3点の基本的な考え方にに基づき、七つのテーマを設けて展示室を構成。また、展示の特徴として、実際の出土遺物を露出展示し、実物の感触を感じてもらうこともコンセプトの一つであ

る。展示室来館者数は、年間約 5.5～5.7 万人でほぼ横ばいの状況である。

現状の課題については、まず今回の展示室更新の主眼は展示内容の刷新と展示施設の更新であることを踏まえたうえで、展示の形態では通史型あるいはテーマ型をどう捉えるかということ、現状では両者を併用している。展示手法では時代ごとの展示か、特定の個別遺跡に集中するか、映像等の活用といった検討の余地もある。また、今後の施設のあり方として、環境負荷の低減も求められる。LED 照明の採用や可動性のある展示ケースの導入、常時開放状態にある現状から、温湿度管理を見据えた展示法の導入などの検討事項が考えられる。

座長：現状については良くわかった。展示解説などをしてしていると、来館者から様々な意見があがってくると思われるが、何か参考になるような話があれば伺いたい。

委員：この展示室は、子どもたちの歴史学習の導入段階として非常に良い役割を果たしている。今の小学校の歴史学習では、北海道の歴史に触れる時間があまりなく、縄文や弥生時代という言葉に慣れないまま中学校に進級している。その点では、小学 6 年生の展示室利用には通史型が適していると考え。テーマ型の展示は、子どもたちのレベルであっても、歴史に興味を持たせる意味ではあってもよいと思う。北海道の学校教育では、北海道の独自の時代区分が十分押さえられておらず、そういった意味でも良い歴史学習の機会を提供している。また、本州から来られる方々には、「北海道の歴史」＝「アイヌの歴史」という先入観がある方もいる。展示室にアイヌの展示がないことに疑問を持つ人もいるが、アイヌの方々の歴史を北海道の歴史の中で押さえしていくのは、決め手となる定説がないように思えるので、そこにどう位置付けていくかは難しい。正しい歴史をきちんと展示すべきだと思うが、どのように展示すべきかは、議論が分かれるところではないか。

委員：本州からの観光客の身になると、1 日で札幌の歴史を見たい人にとって、この埋蔵文化財センターは非常にアクセスの良い施設だと思う。そこで、市民だけでなく本州からの観光客も利用者として考慮した方がよいのではないか。また、展示室の名称として、子どもから呼んでもらえるような愛称を考えてみてはどうか。もう一つは、露出展示という話があったが、やはり文化財なので破損などを防ぐという意味でボランティアの活用なども検討したらよいのではないか。

委員：展示を行う場合、どういうコンセプトにするかが一番大切になる。埋蔵文化財を、どのように、限られたスペースでどう展示していくかというのが一番の大切な議論になる。その後には手法の検討となる。コンセプトを明確にしないと話が広がり過ぎてしまう。そもそも、この施設は誰に向けて発信する教育施設なのかということを決めなければならないと思う。対象が市民なのか、また対外的なものも含めるのかで大分方向性が変わってくる。まず、その方向性を明確にすべきでは。もう一つは、温湿度管理や環境整備の問題。最近では、大震災もあったが、免震構造をどうするかで展示ケースの問題にも関わってくる。それらのハード面についても、ある程度の方向性を明確にしていく必要があるのではないか。

座長：埋蔵文化財をとおしての歴史を描くために、限定されたスペースの中でどのようにするのかを考えるうえで、どんな展示を、誰に向けて展示するべきか、というコンセプトをはっきり確立することが必要との意見でしたが、更にハード面の問題も含めて、他の意見を伺いたい。

委員：私の記憶だと、20年前の開館当時は、アイヌ文化期の遺物はほとんどなかったのではないかと。展示や通史的に何かを紹介しようにも非常に難しかったかと思う。また、埋蔵文化財でアイヌ文化期のもとなると、低湿地でなければ残らないものが主体になるため、展示すること自体が難しい。縄文時代とは時間の変わり方のスピードが違ったり、使われているものも違うので、一概に一言で紹介することはかなり難しい。ものの名称についてもアイヌ語の使用という意見があるが、最近では地域によって名称が異なることも明らかにされてきており難しいところがある。札幌で身近にアイヌ語やアイヌ文化と埋蔵文化財を関連させられるものとしては地名があると思うが、近年、アイヌ文化期の遺跡が見つかってきているとのことなので、以前に比べれば何かできるのではないかと思う。ただ、この展示室の面積の中に盛り込むのは難しいだろうし、そういった面ではアイヌ文化の資料がある小金湯のアイヌ文化交流センター（サッポロピリカコタン）や北海道開拓記念館、白老町のアイヌ民族博物館（しらおいポロトコタン）といった他館との間にリンクを張って展示紹介をするといった方法もあるのではないかと。

委員：展示室の現状について、利用者側からの意見を聞きたい。この展示室の特色は、図書館と併設されているところで、全国的にも珍しい。図書館利用者も取り込んで、埋蔵文化財あるいは歴史に対する理解を深めていただく機会を提供するという視点も必要なのではないかと。もう一つ、札幌市は博物館がまだ準備段階のようなので、札幌の歴史を通史的に見せる役割もある程度果たしているのでは。発掘した資料をいかに活用していくか、埋蔵文化財センターとして展示すべき内容は何なのか明確にしておく必要があるのではないかと。

委員：展示室についてアンケートなどはとっていないのか。今あがっている意見などがあれば聞かせてほしい。

事務局：展示内容についてアンケートを実施したことはない。来館者については図書館利用者も多いと思われ、広くわかりやすい展示を心がけている。委員ご指摘のとおり展示コンセプトは今回の基本方針の中で最も重要な部分であり、本日の意見をもとに事務局でも検討を進めたい。

委員：現状では「ニュース」の区画だけ毎年展示替えを行っているとのことだが、ニュースの区画以外は展示を変えていないのか。

事務局：平成13年に埋蔵文化財センター開館10周年に合わせて一部の展示を変更している。その際に、国立歴史民俗博物館からジオラマを借受けて設置している。それ以降は常設展示の変更はない。

委員：そうだとすれば、一般の人たちに新しさを感じさせたり、興味を持たせる部分というのはニュースと体験コーナーになる。展示は予算もかかるので難しいし、この施設だけの問題ではないと思うが、やはりそこだけでリピーターを獲得するのは難しいかと。

座長：ここまで、もっぱら新しい時代の議論が多かったが、ここで少し古い方の時代についても、どこに焦点を絞るのが良いかや、札幌市の歴史の中で押さえるべきところはどこかといった部分についても委員の意見を伺いたい。

委員：今の展示構成は、テーマ型と通史型の両方がある程度兼ねた展示になっているとの説明があった

が、展示パンフレットの「2」から「3」にかけてのコーナーがその要素を兼ねていて、「1」と「4」は別のコンセプトになっているように思える。今までの展示のあり方として、先に連続性という問題も出たが、歴史性を読み取れる展示なのか否か、現状のあり方に対してこれまでどのような反応があったか。

事務局：展示「1」の調査のあゆみは、展示室の導入部として多くの来館者の興味を引く部分だと感じている。展示「2」と「3」は、当時の充実した資料をもとにした構成になっている。展示「4」で通史的なところを紹介し、展示「1」と「5」が埋蔵文化財センターの仕事を紹介する部分である。埋蔵文化財センターの業務内容を理解してもらおうという意図があった。

座長：この辺りで一度、事務局側に今の意見などをとりまとめてもらいたい。札幌市側がどういう考えで展示を作ろうとしているのかを提示してもらい、それに対しての意見ということで具体的な内容に入っていきたい。次回1月までには、展示コンセプトを含めて議論のたたき台を提示して欲しい。本日最後になるが、他に意見などはあるか。

委員：国連でも先住民族の権利宣言が30年かかって採択され、日本の国家もアイヌを先住民族と認めた訳ですから、そういう方向で、今あるものをどこまでできるのかわからないが、私たちの子どもや孫が、これからアイヌの歴史に自信を持っていけるような、そんな施設にしていきたい。

委員：やはりコンセプトをどう持っていくかが大切だと思う。面積などの制限もあるので、対象が誰で、どうしたいかが決まれば、展示構成やそのほかにも明確になってくる。そこを議論していった方が早くまとまるのではないか。

委員：次回委員会までに、札幌市側のねらいやコンセプトが出されると議論しやすい。例えば、展示スペースの話が出ていたが、どの資料を展示候補とするのかなど、市側で議論して欲しい。また、現在は埋蔵文化財に対する考え方も変わってきており、今後はどう活用していくのかという方向へシフトしていく段階。学校との連携を射程に入れているのであれば、活用できる展示というのも柱の一つになるのではないか。

委員：スペースの制約、例えば床下や目線より上の空間などについて、工夫の余地はあるのか。間取り中央の壁は取り去ることが可能か。

事務局：今後は、狭さを補う映像の活用などが考えられる。中央の壁は間仕切り壁なので撤去は可能である。

委員：博物館準備室と埋蔵文化財センターとの連携はあるのか。また管轄する市の部署は同じか異なるのか確認したい。

事務局：博物館計画は、今後3年程度をかけて検討する予定。これまで札幌市の博物館は、北方の自然系博物館という位置付けをしている。今後、埋蔵文化財センターとの関係を考える必要があるが、今回の検討の中では、独立した形で検討していただけないかと思う。博物館計画と一緒に連動するというのにはもう少し時間がかかると考えており、一端は、この埋蔵文化財センターの施設の

中で独立した形で検討していただきたいと考えている。

委員：展示室に来館される一般の方が、最も熱心に質問し興味関心を持つのは展示の「1」である。逆に、子どもたちは展示の「2」、「3」あたりに興味を示す。解説する側としても展示「1」が勉強になったと同時に、もう少し展示スペースをとれるとよいのではないかと考えている。

座長：ありがとうございました。最後に個人的な感想となるが、年間 5.5～5.7 万人が図書館併設ということもあって集まるというのはとても大事なことだと思う。今、単独の館でそれだけの人を集めることは非常に難しい。これを大事にしていきたいと同時に、それなりのニーズもあるのではないと思う。それに応えられるようなものを考えていきたいと思うので、委員の皆さん、どうぞよろしくお願いいたします。

3. 閉会

以上をもって、平成 23 年度第 1 回埋蔵文化財展示室更新検討委員会を閉会とし、第 2 回目の同検討委員会開催について、日程調整の時期や大まかな予定内容について連絡し、同検討委員会を終了した。

■ 次回 第 2 回埋蔵文化財展示室更新検討委員会開催予定 平成 24 年 1 月（日程調整のうえ正式告知）

この会議要旨は、事実と相違ないことを証明いたします。

平成 23 年 12 月 24 日

埋蔵文化財展示室更新検討委員会委員

署名人 阿部一司

署名人 右代啓視